

防災シンポジウム 関東大震災の教訓を伝える「震災遺構公園」 概要報告

公益財団法人都市防災美化協会主催の防災シンポジウム 関東大震災の教訓を伝える「震災遺構公園」が10月18日(金)に日比谷公園内、緑と水の市民カレッジで開催されました。

造園 CPD 認定プログラム 3 単位

防災シンポジウム

関東大震災の教訓を伝える『震災遺構公園』

- ・平成30年度実施した「関東大震災に係る震災遺構における緑地の役割と今後の活用のあり方に関する調査・研究」の成果に基づき「震災遺構公園」を考える。
- ・研究成果：関東大震災の復興事業で築造された震災遺構公園は、優れた震災遺構であり、震災の教訓を伝承する地域として積極的に保全・活用するニーズが明らかになった。
- ・そこで、今回のシンポジウムでは、震災遺構公園という新たな公園像を提起し、その具体的な姿を探ることをテーマに、防災計画の専門家、造園家、公園・緑地行政の担当者等の専門家の皆様と一緒に考えていく。

日 時 令和元年10月18日(金)

13:30(13:15開場)～

場 所 緑と水の市民カレッジ2階

東京都千代田区日比谷公園1-5日比谷公園内

講 演 (13:40～)

『防災シンポジウムの趣旨』

斎藤庸平氏(兵庫県立大学名誉教授)

『都立公園における発災に備えた取組み』

葛貫智氏(公益財団法人東京都公園協会防災課長)

『関東大震災と横網町公園』

上杉俊和氏(公益財団法人東京都慰霊協会常務理事)

『関東大震災遺構公園 52小公園の現状』

落合直文氏(株式会社文化環境設計研究所代表取締役)

パネルディスカッション(15:30～)

コーディネーター 『委員長総括』

中林一樹氏(東京都立大学名誉教授)



【シンポジウム内容】

1. 主催者挨拶

中島 宏氏(公財)都市防災美化協会
理事長より主催者挨拶が行われた。



2.シンポジウムの趣旨説明

斎藤庸平氏(兵庫県立大学名誉教授)より、
本日の趣旨説明が行われた。



3. 講演主

(1)「東京の公園」

講師 葛貫智氏(公益財団法人東京都公園協会防災課長)

講演内容は以下の通り。

- ・大地震の教訓と防災公園(関東大震災等)
- ・東京都における防災公園整備の取組み
- ・公園協会の防災対応力強化の取組み



(2)「関東大震災と横網町公園」

講師 上杉俊和氏(公益財団法人東京都慰霊協会常務理事)

講演内容は以下の通り。

- ・関東大震災の被害状況
- ・陸軍被服廠跡での被害
- ・横網町公園の計画経緯
- ・現在の横網町公園
- ・関東大震災後 100年 2023年への取組み



(3)「関東大震災遺構公園 52小公園の現状」

講師 (株)文化環境設計研究所代表取締役 落合直文氏

講演内容は以下の通り。

- ・調査の背景と目的
- ・文献調査(緑の基本計画での位置づけ)
- ・震災復興小公園の施設現況
- ・関東大震災の伝承施設
- ・利用者アンケート調査概要・結果
- ・震災遺構等の保護及び利活用のあり方



4. パネルディスカッション

コーディネーター・総括 中林一樹氏(東京都立大学名誉教授)

概要は以下の通り。

(1) 論点

- ・ 区立・都立・国営公園のそれぞれの防災的役割
- ・ 都立横網町公園を核とする震災遺構公園のネットワークの概念について
- ・ 都立公園と区立公園の連携について
- ・ 横網町公園のこれからの役割
- ・ 関東大震災 100 年に向けて



(2) 総括

人口減により一人当たりの公園面積は大きくなり、数値上、公園は充足となってしまうが、防災の面では足りていない。主要な公共施設と隣接して公園をつくる。過去をとどめながら未来につないでいけるのが公園。記憶としてとどめておくための装置として、最も有効。学校や道路よりも長くその場に存在できる。公園から過去の教訓を学び、未来につなげる。また、現在の東京の発展を支えた主要な橋・道路・公園は、関東大震災時に各国から受けた義援金を資金源として整備したインフラ。そのおかげで今の東京がある。「復興で育った東京」を世界に発信し、世界遺産に申請する提言も行っていきたい。また、関東大震災 100 年に向けて各区にも働きかけたいため、横網町公園で毎年実施している防災ウィークにおいて、来年度は区を招いて話し合う機会を設けたい。



5. シンポジウムアンケート結果

「復興小公園のことを初めて知った」「52 小公園のアンケート結果が大変興味深かった」「遺構を目につくところに残しておことで、震災の事実を認識させることに大変有効であることに興味を持った」「公園の空間はずっと残るという話が良かった」「東京都は真剣に防災に取り組んでいる。もっと都民が知るべきだ」「防災意識が高まっている今、改めて震災遺構を通じて歴史から学び啓発していく必要性を感じた」「日本に住む外国人にも防災意識を共有できるような施策が重要」「関東大震災 100 年の際には関東大震災とその後 100 年間にあった災害について紹介し、現在までのつながりを持たせた方が良い」「次の震災に向けてどう備えるか、震災を生き残る術についてつなげる」「実際、住民全員で避難訓練できると良い」「近隣住民が憩いを求めてくる公園と歴史を結びつける難しさ、不動産価値を下げたくない気持ちを理解しつつ震災遺構をどのように残していくか、考えさせられた」など、積極的な意見をいただきました。